

IODEP マニュアル
《SMTP メール送受信機能》
rev 1.0

2013/04/18 株式会社 Javatel

目次

IODEP マニュアル 《SMTP メール送受信機能》 rev 1.0.....	1
目次.....	2
1 この文書について.....	3
2 変更履歴.....	4
3 ハードウェアの準備.....	5
4 設定ファイルの準備.....	6
5 SMTP メール受信→IODEP.....	7
5.1 メール受信機能.....	7
5.1.1 SMTP メール受信からの受信シグナル書式.....	7
6 IODEP→SMTP メール送信.....	8
6.1 メールテンプレート.....	8
6.2 実行コマンド詳細.....	8
6.2.1 SMTP メール送信の実行コマンド書式.....	8

1 この文書について

本文書では、IODEP の SMTP メール送受信機能について記述します。「IODEP_共通.doc」を先に読んでいることを前提とします。

2 変更履歴

1.0 2013/04/18 マニュアルの文書構成を大幅に見直し。複数ファイルに分割。

3 ハードウェアの準備

とくにありません。

4 設定ファイルの準備

インストールフォルダ C:\¥Javatel¥IODEP にある、**iodep.ini** ファイルをテキストエディタで編集してください。空行および、行頭が「#」で始まる行は無視されます。

IODEP.smtpListenPort	SMTP アクセス受信のために待ち受けるポート番号。デフォルト 25。ファイアウォールでこのポートへのアクセスを許可しておく必要があります。
IODEP.acceptSmtClient.1	SMTP アクセスを受け入れるクライアントの IP アドレス
IODEP.acceptSmtClient.n (n は自然数)	同上。ライセンスで許可された数だけ設定できます。
IODEP.smtpSendServer	IODEP からメール送信する際にアクセスする SMTP サーバの IP アドレスとポート番号を「:」で連結して記述します。
IODEP.smtpAuthUser	SMTP 認証を行う場合のユーザ名を指定します。認証を行わない場合は空です。
IODEP.smtpAuthPassword	SMTP 認証を行う場合のパスワードを指定します。認証を行わない場合は空です。
IODEP.smtpConnectSSL	SMTP 通信経路の SSL 暗号化を行う場合「On」を指定します。
IODEP.smtpSender	IODEP からメール送信する際の From アドレス
IODEP.smtpMailReceiver.1	IODEP からメール送信する際の登録受取人アドレス
IODEP.smtpMailReceiver.n (n は自然数)	同上。ライセンスで許可された数だけ設定できます。
IODEP.mailTemplateFileDir	メールテンプレートファイルを格納するフォルダ名。LOCALSYSTEM ユーザーから読み込み可能である必要があります。

5 SMTP メール受信→IODEP

IODEPがLAN内で簡易的なSMTPサーバーとなり、所定のポートで待ち受けます。メールの送信先アドレスとIODEP操作メッセージを対応づけた「コマンド定義ファイル (dbx)」により、予め予約してあったコマンドを実行します。コマンド定義ファイル (dbx) はGUIアプリケーションで編集することもできます。

5.1 メール受信機能

5.1.1 SMTP メール受信からの受信シグナル書式

SMTP メール用の定義ファイルでは、メールの TO アドレスをそのまま受信シグナルとします。

test@example.com

To メールアドレス

① To メールアドレス :

iodep稼働マシンを擬似的なSMTPサーバーとしてメール送信する際のToメールアドレス。「@」の前後に半角英数とピリオド、ハイフンを使った文字列を使用可能です。実際にリレーしてインターネットにメール送信するわけではないため、存在しないアドレスを使って問題ありません。SMTPメール送信に関する詳細は**エラー! 参照元が見つかりません**。章を参照してください。

6 IODEP→SMTP メール送信

予め登録してあるメールアドレスに対して、本文固定のメールを送信することができます。

6.1 メールテンプレート

設定ファイル「iodep.ini」で「IODEP.mailTemplateFileDir」として設定したディレクトリ直下に、テンプレートファイルを配置します。

表 1 メールテンプレートファイルの例

[XXXX]エラーが発生しました。	1 行目がタイトル	2 行目は空行
XXXX デバイスでエラーの信号が発生しました。 至急 XXXX に確認をお願いします。 連絡先は 000-000-0000 です。	3 行目以降が本文	

6.2 実行コマンド詳細

6.2.1 SMTP メール送信の実行コマンド書式

メール送信を行う場合は以下の要素を半角スペースでつなげてコマンドを定義します。

#3 (半角スペース) **template1.txt**
 受取人番号 メールテンプレートファイル名

① 受取人番号

メールを受け取る人の番号。アプリケーションの設定ファイル(iodep.ini)で定義された番号を使う。

② メールテンプレートファイル名

送信するメールのタイトルと本文を記述したテキストファイルのファイル名。

ファイル名にはスペースを含まないものとしてください。

メールテンプレートファイルは以下の書式で文字コード Shift_JIS で作成し、アプリケーションの設定ファイル(iodep.ini)で定義されたフォルダに配置してください。

表 2 実行コマンド定義の例

コマンド定義の例	解説
#2 template1.txt	受取人 2 に、template1.txt ファイルの内容でメールを送信する。
Wait 1s	1 秒間ウェイト

表 3 コマンド一覧

コマンド	デバイス番号	引数	内容
任意	整数値	なし	メールタイトル
Wait	なし	ミリ秒 (末尾に s をつけると秒)	ウェイト